



猛暑で参加者7名と少し残念でしたが、西大寺百花プラザ二階ふれあいルームにて汗を流しました。

練功18法で準備運動、24式、そして今期習いたての48式、公園では出来ない武器を持つての種目を行いました。

青木さんによる太極刀の表演、既習者による32式太極剣、最後は棍、一通り演じた後対面で棍を合わせるカチン、カチンの音が響きました。

その後は体験コーナー、棍をやりたいの声を受け、皆さん新聞紙を丸めた特製の棍を作り、青木さんから持ち方、握り方、打ち方の説明を受け、いざ!!

棍もやった 太極拳交流会



初めてでも、なかなかさまになつていましたよ!

「剣、前やったんだけど忘れてしまつて……またやらんといけんな。」

などなどまた意欲が、湧いてきたようです。

自宅では屋外の練習になるので(私は)本心もう少し涼しくなつてからがいいなく!でも、昼は歩いて近くの店でデザートつきランチ、目も満たされ、夏の日を過ごしま

※太極拳における「棍」とは 太極拳における「棍」は、長い棒状の武器のことで、太極拳の「武器術 器械套路」の一種です。

太極拳の「棍」は、単なる棒術ではなく、太極拳の動きの原理を棍を使つて学び、表現するものという特徴があります。例えば、棍を身体の周りで回す動きも、拳法と同じく「腰」の動きが導くと考えられています。

棍の持つ特徴や役割は、以下の



した〜!

今回は11月29日、もう涼しくなっているでしょう。公園で心地よい風を感じながら……そう願っています。参加無料! 是非ご参加ください。お待ちしております。

(岡田 民)



8月24日から30日、日中友好協会の青年代表团として中国を訪問しました。

中国百科検定青年代表团に参加して 普通の旅にはなかなかない感じの旅

これは中国百科検定の成績優秀だった青年を中心とした代表团で、本来なら昨年の8月に訪中予定だったのですが、延期してこの8月での訪中となりました。

私自身はすでに青年(四十歳以下)ではないので、引率という形で参加しました。中国百科検定の成績は、まあ百科博士なのだから、参加者の一員になつても、悪くはなかったらうと思います。

旅程を大きく分けると、博物館見学、最新AI関連見学、

通ります。

基本的な武器…武術の基本とされる原始的な武器で、槍や刀、剣などの他の武器術にも通じる身体操作を学べます。

「手」の延長としての役割…棍を用いることで、素手の太極拳では意識しにくい全身の協調性や、力を伝える感覚を養うことができます。

長さや名称…「短棍」と呼ばれる比較的短いものや、「三尺棍」のように長さで呼ばれるものも

あります。

流派…楊式、武式など、様々な流派に棍の套路(型)が伝わっています。

素材…競技用では、「白蠟杆(はくろうかん)」という、しなりがあり丈夫な木材が使われることが多いです。

つまり、太極拳の棍は「武器」であると同時に、太極拳の理を深めるための大切な練習具でもあると言えます。



中国人民抗日战争纪念馆 (北京市) 26日

現地青年との交流、そして抗日戦争関連の見学でした。個人や旅行会社による団体旅行では、なかなかない感じの旅でした。

青年団の中には、大学でよく学んで、訪れた抗日記念館などで熱心に質問する人もいました。記念館の館長に直接質問できる機会なんて、まず



ロボット大世界 (北京市) 26日



題字 故 原田 親

第 1078 号

2026 年

9 月 15 日



日中友好協会 岡山支部

〒700-0054 岡山市北区下伊福西町 1-53

民主会館 1F

086-250-5806

mail :



website :



日中友好協会 倉敷支部

〒710-0056 倉敷市鶴形

1-9-30-1202

050-3440-1931

日中友好ネット ワーク岡山



必ずお読み下さい！！

2026 年度 後期新聞購読費・(会費) 納金のお願い

岡山支部の会員・準会員 各位

2026 年 9 月 14 日

平素より日中友好協会岡山支部をご支援いただき、ありがとうございます。

さて、昨今の物価高等で、何かと生活が厳しくなる中で誠に恐縮なお願いですが、本年度後期の新聞購読費・(会費) を納金していただきたくご連絡申し上げます。

この度、集金させていただきますのは 2026 年の 10 月から 2027 年の 3 月までの 6 ヶ月分になります。継続をご希望の方は、期日までにご入金下さいますよう、お願い申し上げます。

註：「家族会員」の方は 9000 円の納金となります。

既に 10 月以降分の納金をされている方は、別途お送りしたはがきでご確認下さい。

■ 新聞もご購入されている会員の方 (会員)

振込額：6000 円

(会費 500 円 / 月 + 新聞購読料 500 円 / 月) × 6 月 = 6000 円

■ 新聞のみをご購読されている方 (準会員)

振込額：3000 円

新聞購読料 500 円 / 月 × 6 月 = 3000 円

◇ 振込期限：9 月 30 日 (水)

◇ 振込先：ゆうちょ銀行 01250-0-3835 日中友好協会岡山支部

※ 振込手数料をご負担下さい。

※ 会計の事務を軽減するため、振込をご利用下さい。

岡山支部 会計担当：大月正雄 japan_china@icloud.com

090-3927-5411

※ ご不明な点がございましたら、上記までお問い合わせ下さい。



露天砦大型設備陳列広場 (遼寧省) 28 日

ないものです。
もちろん、同行者の中には最近の中国のアニメにはまっていて、自由時間に推しを求める人もいました。どちらか

と言え、わたしもそちら側です。

訪問した博物館、記念館では多くの写真を撮りました。中国語で書かれたパネルをとつさに理解することは難しかったのです。これからぼちぼち訳しながら理解を深めていこうと思います。

ところで今、旅のしおりを確認してみたところ、検定の成績優秀者だけでなく、検定を受験しただけでも、青年代表団に参加できたようでした。現在、中学生、高校生、大学生、四十歳以下の人は、ぜひ中国百科検定試験を受験して、次回訪中団に参加すると思います。

第二〇回中国百科検定は 12



遼寧省博物館 (遼寧省) 29 日

月 5 日 (土) に開催されます。岡山会場もあり、申込はすでに始まっています。

(小川涼子)

※「中国百科検定」は、日本中国友好協会が主催する、中国の総合的な知識を問う検定試験です。二〇一四年に開始され、「理解は

絆を深める」という理念のもと、言語ではなく、歴史、地理、政治経済、文化など多岐にわたる中国理解度を評価します。

初級から特級まで五つのレベルがあり、受験者の知識や関心に合わせて選択できます。初級・二級・三級は誰でも受験可能ですが、二級は二級の、特級は一級の合格が条件となります。出題は公式テキスト『中国百科』に準拠し、初級・一級はマークシート方式、特級は記述式です。

二〇二六年は第 19 回 (7 月 4 日に実施済み) と第 20 回 (12 月 5 日) に開催され、全国の主要都市で試験が実施されます。特に成績優秀な青年には中国への招待などの特典もあり、就職活動などにも役立てられています。

日中友好協会岡山支部のグループ LINE

「日中友好ネットワーク岡山」

にご参加下さい！

エラーが出て入れない場合は
090-3927-5411 (大月)
までお問い合わせ下さい。



北京「ロボット運動会」で感じた 人間との協働・共生への確かな期待

先日、ネット中継で北京で開催されたロボット競技会を視聴する機会がありました。数ある競技の中でも、特に「ロボット運動会」は、私に強烈な印象と深い感動を与えてくれました。それは単なる技術デモではなく、人間と機械の新たな共生関係を予感させるものでした。

まず何よりも驚かされたのは、二足歩行ロボットの敏捷性と安定性の向上です。かつてはゆっくりとした歩行がやっとだったと記憶していますが、今回の競技では、起伏のある専用コースを軽やかに走り抜け、さらには小型のハードルを難なく跳び越える姿が印象的でした。特に心を奪われたのは、バランスを崩しかけた瞬間に瞬時に体勢を立て直すシーンです。関節モーターの緻密な制御と、姿勢センサーによるリアルタイムなフィードバックが機能していることを実感しました。

団体競技の「玉入れ」では、チームワークが巧妙でした。複数のロボットが連携してカゴめがけてボールを投げるのですが、それぞれが単に指示された動きをするだけでなく、味方の位置や相手の妨害を予測しながら行動しているように見えました。通信遅延を極限まで克服し、互いの位置情報を共有する「群知能」的なアルゴリズムが、ここまで実践レベルで動くのかと感心さ

せられました。

そして最大の見せ場は、人間対ロボットの「障害物リレー」でした。人間のランナーがバトンを渡すと、ロボットがそのままコースを疾走し、再び人間にバトンを戻すという複雑な工程を、一切のミスなく遂行してみせました。その様子は、もはや「機械の動作」ではなく、「共演」と呼ぶにふさわしい美しさすら感じさせてくれました。

技術的驚嘆と同時に、私が強く感じたのは、これらのロボットが「完璧さ」だけを追求していないという点でした。転んでも自力で起き上がり、失敗しても次の動作に切り替えるしなやかさが、随所に組み込まれていると感じました。それは、ロボットを単なる道具ではなく、過酷な現場や日常生活で共に働く「パートナー」として見据えた設計思想の表れではないでしょうか。

北京のロボット運動会は、様々な技術と AI の統合が生み出す新たなステップを鮮やかに見せてくれました。この驚きと感動は、もうすぐそこまで来ているロボットと人間の協働・共生への確かな期待でもあります。来年はさらにどんな進化を見せて私たちの前に現れてくれるのでしょうか。楽しみです。

(大月正雄)